



第12回

関西体育授業研究会

公開授業 2本、実践発表6本、
授業づくり講座3本

関西最大級の体育研究会 4年ぶり 完全実施

令和5年11月25日(土)

9時00分～15時20分

受付 8時20分から開始

参加費 2000円(学生500円)

場所 大阪教育大学附属池田小学校

テーマ 「授業力向上 ～子供たちが繋がる教材づくりを通して～」

学校教育は、コロナ禍で大きな影響を受けました。その中でも体育科が受けた影響は非常に大きいものでした。仲間との「繋がり」の中で学ぶことの多い体育科。身体接触が限られる中、体育の授業はどうあるべきか試行錯誤が続きました。しかし、そのなかでも得たこともありました。身体接触のみにとどまらない「繋がり」です。身体活動を主とする体育において、今一度その学びの内容や方策を考える機会となりました。

アフターコロナ時代の体育において、ただ「元に戻る」のではなく、この3年間で得たことと融合させた授業の創造が望まれます。我々は、この3年間の経験を生かし、決して「失われた3年」と捉えず、今の子供たちにとって、これからの子供たちにとって必要な体育授業を模索していきます。2本の授業における教材づくりの過程、また子供たちとの授業での営みを通して、我々が授業にこめた願いを提案します。

申し込み方法

関西体育授業研究会ホームページにアクセスしてお申し込みください。(http://kantaiken.jp/)

複数人申し込まれる場合でも1人ずつお申し込みください。



関体研 HP



関西体育授業研究会

事務局 西岡 毅

お問合せ Email : kpes2009@gmail.com

ホームページ : <http://kantaiken.jp>

プログラム

第Ⅰ部 公開授業（授業① 9時00分～9時45分 授業② 10時00分～10時45分）

◆ 公開授業① 5年 体づくり運動「きずなわ」～なわとびでつなごう、仲間との絆～

授業者 井上 光（大阪市立玉造小学校）

助言者 梶井 大輔 先生（大谷大学）

短なわを用いた運動の授業では、子供が黙々と1人で、技の達成や記録の向上を目指してがんばる姿をよく見かけます。そうすると、子供たち同士の関わり合いが、少なくなりがちです。関わり合いながら取り組むことができるなわとび運動の特性を生かせば、もっと楽しい運動として取り組むことができます。子供たちがつながり、「未知の」動きを仲間と探求し、巧みな動きを高めていくことをねらいとした、なわとびの授業を提案します。

◆ 公開授業② 4年 ボール運動「フットホッケー」授業者 二谷 洋平（兵庫県明石市立藤江小学校）

助言者 米村 耕平 先生（香川大学）

体育ならではの学び、ゴール型ゲーム領域ならではの学びとは何でしょうか。その教材でしか学べない特有の価値と他教科や他領域にも広げることのできる共通の価値があると考えています。本教材ではフットサルをもとに、足を使って教具を扱う2次元空間で学習価値の獲得に迫ります。空間認識を段階的に高められるよう展開を工夫すると共に、アフターコロナの時代だからこそ子供たちが繋がりながら本気で楽しめる教材づくりを提案します。

第Ⅱ部 協議会（11時00分～12時30分）

授業①、授業②について協議会を行います。どちらかの授業を選んで協議会に参加してください。

第Ⅲ部 ブース発表（13時20分～14時20分 ※30分交代制）

6ブースに分かれて実践発表を行います。6ブースから2ブース（前・後半）を選んで参加してください。

	発表者	内容
A	福井県越前市立武生西小学校 川端 宏明	特別支援学級籍児童と普通学級児童が「繋がった」ポートボールの実践です。みんなと一緒に活動することが難しかった子が生き生きとみんなとゲームを楽しむために行った工夫を紹介します。
B	東大阪市立英田南小学校 山本 毅・香川 一実	ICTの活用と繋がり合いで一人一人の動きを高め合う授業づくりを目指しました。繋がり合って、動きを高め合い、共に喜び合う子供たちの様子を通して、「オリジナルバンブーステップ」の授業づくりを提案します。
C	兵庫教育大学附属小学校 門積健太・谷尾康太 堀口健太	どうすれば、器械運動の「こわさ」を取り除き、どの子も熱中する授業が展開できるのでしょうか。それを解決する一助となるのが「運動イメージ」です。実践例をもとに、「運動イメージ」の形成について提案します。
D	兵庫県尼崎市立塚口小学校 堀 祥三	1年生のゲームとして「天大中小」を行いました。アドラー心理学をもとに、「横の関係」や「勇気づけ」などを用いて子供へ関わることで、主体的に学ぶ学習を目指した実践を提案します。
E	滋賀県草津市立常盤小学校 青山 哲士	ベースボール型ゲームの難しさの一つに「守備のときにどう動けばよいのか分からない」といった守備側の状況判断があります。本実践では、守備側の状況判断をどのように学んでいけばよいのかについて提案します。
F	堺市立金岡南小学校 巽 豊	運動には、人と人とを繋ぐ力があります。本実践では、その運動が想定した「他者にとって」楽しいものであるのかを子供自身が考えます。実際に働きかける活動を通して子供が運動について多様な価値を感じられることをめざした授業を提案します。

第Ⅳ部 授業づくり講座（14時30分～15時20分）

3講座に分かれて受講していただきます。3講座から1講座を選んで受講してください。

山崎 雅史（園田学園女子大学）	『体育授業におけるリスクマネジメント －体育に怪我はつきもの？－』
松田 大央（滋賀県守山市立物部小学校）	『ICTを使って体育をレベルアップしよう！ 効果的な使い方、ネタを教えます！』
渡邊 和也（大阪教育大学附属平野小学校）	『体育科の評価・評定の仕方・活かし方』

急な変更があった場合は、HPにてお知らせいたします。ご了承ください。